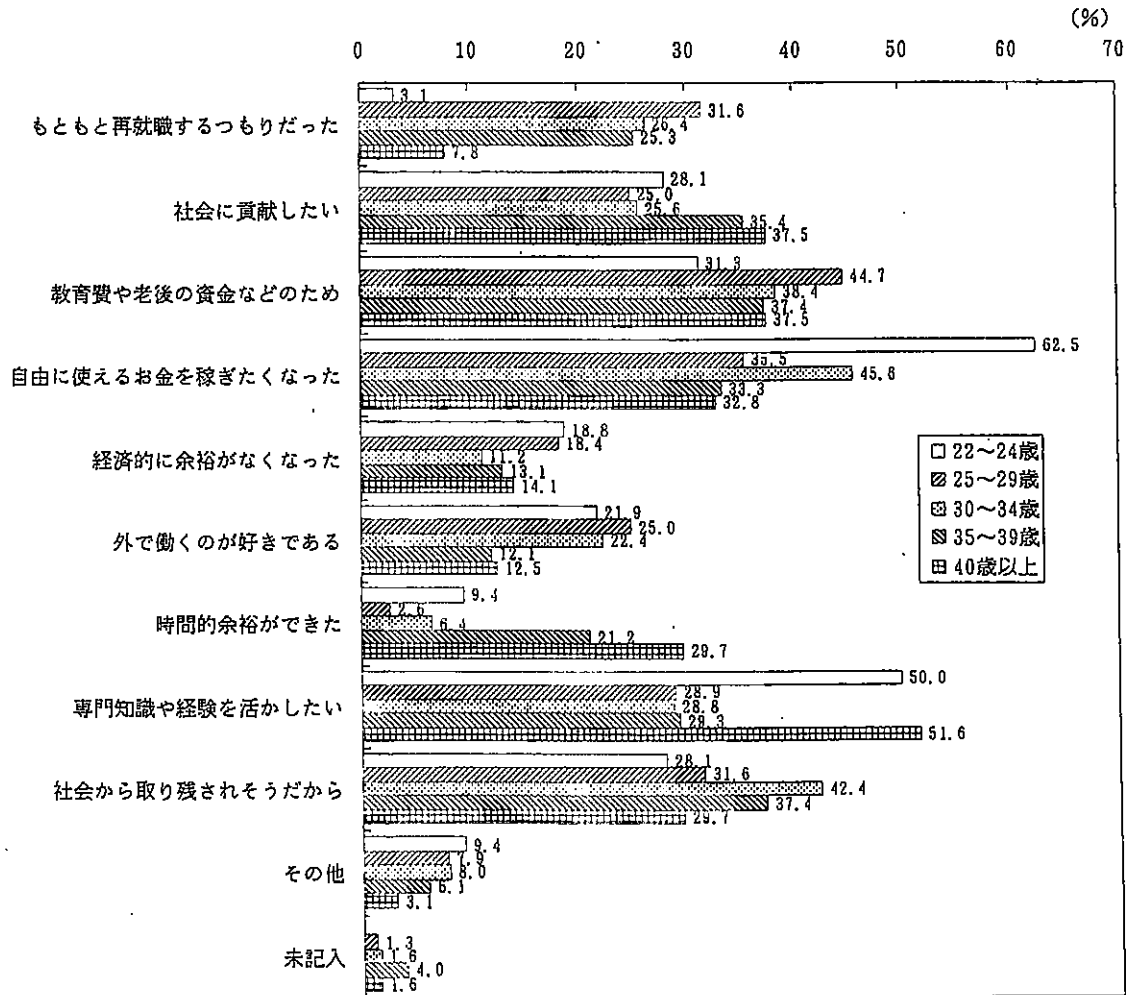


働きたい理由（無業再就職希望者／複数回答）



資料出所：日本労働研究機構「高学歴女性と仕事に関するアンケート」（平成10年）

（注）大学卒の女性（5000人）を対象とした調査である。

性、年齢階級、適当な仕事が見つからなかった理由別高年齢就業希望者割合

| 性・年齢階級 | 適当な仕事が見つからなかった | 理 由 | | | | | | 不明 |
|--------|----------------|---------------------------|--------------------|---------------------|--------------------|-----|------|-----|
| | | 今までの技能、経験を活かせる仕事 がなかった | 労働時間が希望と合わ なかった | 賃金、報酬が希望と合 わなかった | 通勤時間が希望と合 わなかった | その他 | | |
| 男 | [63.7] | 100.0 | 66.7 | 7.4 | 7.0 | 1.0 | 17.7 | 0.2 |
| 55～59歳 | [64.2] | 100.0 | 61.7 | 3.8 | 19.5 | 0.4 | 14.1 | 0.6 |
| 60～64歳 | [70.5] | 100.0 | 67.8 | 8.0 | 5.7 | 0.7 | 17.6 | 0.2 |
| 65～69歳 | [55.8] | 100.0 | 67.9 | 8.6 | 2.0 | 1.7 | 19.8 | - |
| 女 | [45.1] | 100.0 | 44.7 | 16.3 | 2.5 | 4.7 | 31.1 | 0.8 |
| 55～59歳 | [48.4] | 100.0 | 42.0 | 21.3 | 3.5 | 4.4 | 28.4 | 0.4 |
| 60～64歳 | [48.3] | 100.0 | 45.4 | 14.9 | 2.1 | 5.6 | 31.3 | 0.7 |
| 65～69歳 | [36.8] | 100.0 | 47.1 | 11.6 | 1.8 | 3.5 | 34.6 | 1.4 |
| (前回) | | | | | | | | |
| 男 | [59.3] | 100.0 | 64.1 | 11.1 | 7.6 | 2.3 | 15.0 | - |
| 55～59歳 | [57.8] | 100.0 | 68.2 | 5.3 | 12.4 | 2.4 | 11.6 | - |
| 60～64歳 | [66.7] | 100.0 | 66.6 | 10.4 | 9.3 | 1.9 | 11.9 | - |
| 65～69歳 | [50.4] | 100.0 | 58.3 | 14.5 | 2.9 | 2.8 | 21.6 | - |
| 女 | [39.4] | 100.0 | 34.2 | 24.8 | 4.8 | 5.9 | 30.3 | - |
| 55～59歳 | [42.7] | 100.0 | 31.3 | 30.8 | 6.2 | 5.6 | 26.1 | - |
| 60～64歳 | [43.3] | 100.0 | 34.8 | 22.2 | 5.0 | 7.3 | 30.7 | - |
| 65～69歳 | [30.1] | 100.0 | 37.8 | 20.4 | 2.2 | 3.4 | 36.2 | - |

(注) []内の数字は、就業希望者のうち適当な仕事が見つからなかった者の占める割合である。

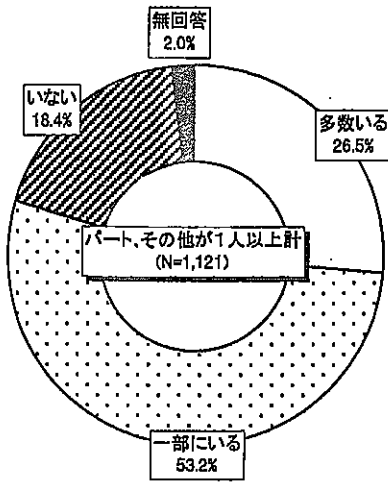
性、年齢階級、希望する勤務形態別高年齢就業希望者割合

| 性・年齢階級 | 適当な仕事が見つからなかった | 普通勤務で 雇われたい | 短時間勤務 で雇われたい | 任意に行う 仕事をした い | 家庭で内職 をしたい | 自分で事業 をしたい | その他 | 不明 | |
|--------|----------------|----------------|-----------------|---------------------|---------------|---------------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | |
| 男 | [63.7] | 100.0 | 43.5 | 41.1 | 7.7 | 1.9 | 1.1 | 4.2 | 0.6 |
| 55～59歳 | [64.2] | 100.0 | 76.8 | 17.2 | 1.0 | - | 0.8 | 3.0 | 1.2 |
| 60～64歳 | [70.5] | 100.0 | 41.6 | 43.3 | 7.7 | 1.5 | 0.9 | 4.2 | 0.7 |
| 65～69歳 | [55.8] | 100.0 | 28.1 | 50.7 | 11.2 | 3.6 | 1.5 | 4.8 | - |
| 女 | [45.1] | 100.0 | 22.9 | 55.6 | 6.1 | 9.5 | 0.7 | 4.4 | 0.8 |
| 55～59歳 | [48.4] | 100.0 | 29.0 | 55.3 | 3.9 | 6.1 | 0.8 | 4.3 | 0.6 |
| 60～64歳 | [48.3] | 100.0 | 19.8 | 58.3 | 7.1 | 8.3 | 0.9 | 4.9 | 0.7 |
| 65～69歳 | [36.8] | 100.0 | 19.9 | 51.1 | 7.3 | 16.4 | 0.4 | 3.6 | 1.3 |
| (前回) | | | | | | | | | |
| 男 | [59.3] | 100.0 | 39.8 | 41.1 | 9.8 | 1.8 | 2.3 | 5.3 | - |
| 55～59歳 | [57.8] | 100.0 | 67.5 | 12.8 | 9.5 | 0.8 | 3.8 | 5.7 | - |
| 60～64歳 | [66.7] | 100.0 | 43.0 | 43.4 | 7.0 | 0.5 | 2.3 | 3.7 | - |
| 65～69歳 | [50.4] | 100.0 | 23.4 | 48.5 | 14.6 | 4.2 | 1.6 | 7.8 | - |
| 女 | [39.4] | 100.0 | 14.3 | 54.4 | 12.4 | 11.9 | 1.2 | 5.8 | - |
| 55～59歳 | [42.7] | 100.0 | 15.0 | 60.5 | 10.4 | 7.0 | 1.5 | 5.6 | - |
| 60～64歳 | [43.3] | 100.0 | 14.6 | 53.3 | 11.3 | 13.5 | 1.2 | 6.1 | - |
| 65～69歳 | [30.1] | 100.0 | 12.5 | 46.5 | 17.9 | 16.8 | 0.7 | 5.6 | - |

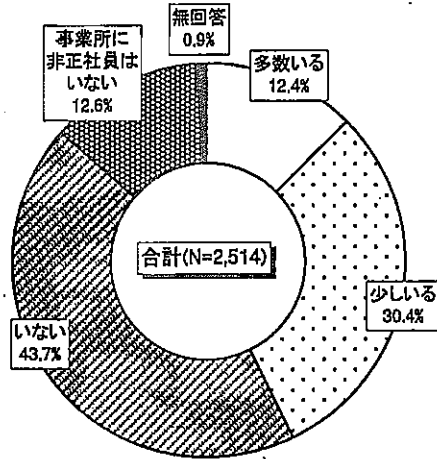
(注) []内の数字は、就業希望者のうち適当な仕事が見つからなかった者の占める割合である。

同じ仕事をしている正社員(非正社員)

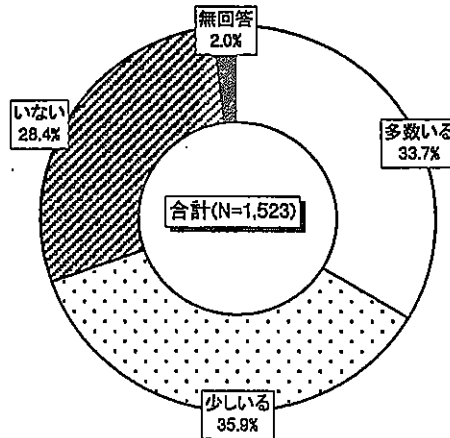
(事業所)



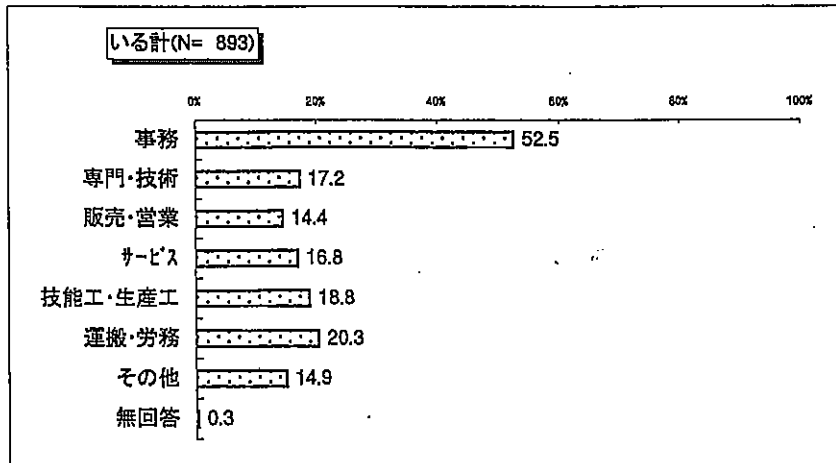
(正社員)



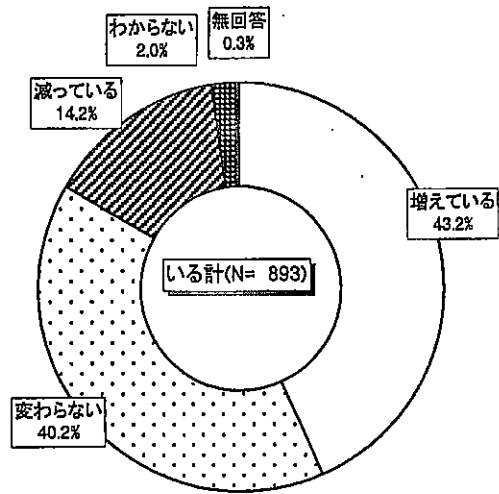
(パート)



正社員と同じ仕事をしているパートが携わっている職種(事業所)(M. A.)



3年前と比べた非正社員の増減(事業所)



資料出所：21世紀職業財団「多様な就業形態のあり方に関する調査」

残業等の拘束性や責任の重さ等も含めて同じ仕事をしているパート（非正社員）の割合

| | 事業所 | 正社員 | パート |
|--------------|------|------|------|
| パート（非正社員）の割合 | 4.7% | 4.1% | 5.0% |

（注）正社員と同じ仕事に従事しているパート（非正社員）の就業状況について聞いたものである。残業・休日出勤について「同じ」又は「多い」、かつ、配転及び転勤（住所変更を伴う）について「正社員・パート（非正社員）ともある（パート（非正社員）の配転及び転勤の頻度が正社員と比べて多い又は同じ）」又は「正社員・パート（非正社員）ともない」、かつ、責任の重さについて、「同じ」又は「重い」と回答したものの、事業所にパート（非正社員）がいる回答者全体に占める割合である。なお、事業所については、配転及び転勤の頻度は聞いていない。

（注）事業所及び正社員には、正社員と同じ仕事に従事している非正社員の就業状況を尋ね、パートには同じ仕事に従事している正社員の働き方との比較を尋ねたため、単純には比較できない。

資料出所：21世紀職業財団「多様な就業形態のあり方に関する調査」

性別一般労働者とパートタイム労働者の1時間あたり所定内給与額の推移

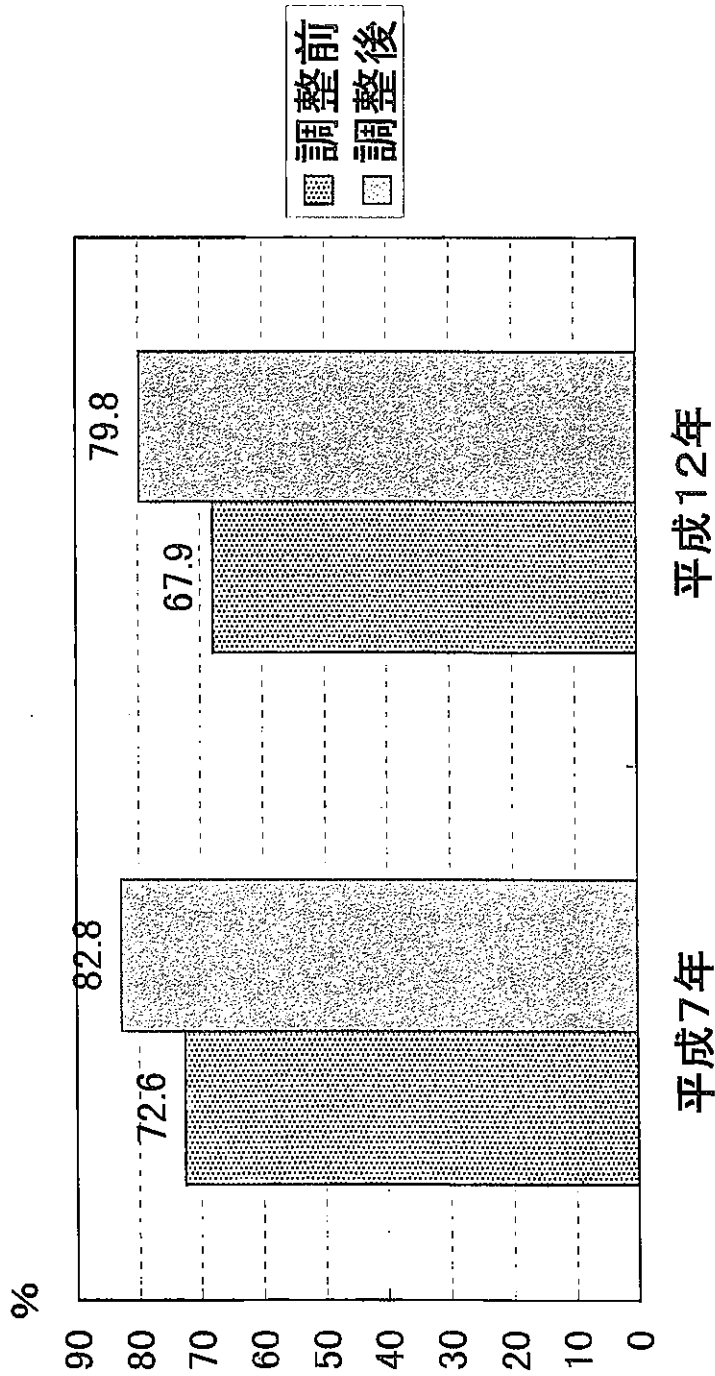
| 年 | 女 性 | | | 男 性 | | |
|------|-------|-----------|-------------|-------|-----------|-------------|
| | 一般労働者 | パートタイム労働者 | 格差 (一般=100) | 一般労働者 | パートタイム労働者 | 格差 (一般=100) |
| 平成元年 | 934円 | 662円 | 70.9 | 1542円 | 855円 | 55.4 |
| 2年 | 989円 | 712円 | 72.0 | 1632円 | 944円 | 57.8 |
| 3年 | 1072円 | 770円 | 71.8 | 1756円 | 1023円 | 58.3 |
| 4年 | 1127円 | 809円 | 71.8 | 1812円 | 1053円 | 58.1 |
| 5年 | 1187円 | 832円 | 70.1 | 1904円 | 1046円 | 54.9 |
| 6年 | 1201円 | 848円 | 70.6 | 1915円 | 1037円 | 54.2 |
| 7年 | 1213円 | 854円 | 70.4 | 1919円 | 1061円 | 55.3 |
| 8年 | 1255円 | 870円 | 69.3 | 1976円 | 1071円 | 54.2 |
| 9年 | 1281円 | 871円 | 68.0 | 2006円 | 1037円 | 51.7 |
| 10年 | 1295円 | 886円 | 68.4 | 2002円 | 1040円 | 51.9 |
| 11年 | 1318円 | 887円 | 67.3 | 2016円 | 1025円 | 50.8 |
| 12年 | 1329円 | 889円 | 66.9 | 2005円 | 1026円 | 51.2 |

資料出所：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

(注) 一般労働者とパートタイム労働者では、勤続年数、職種等に違いがあるので、単純には比較できない。

(注) 一般労働者の一時間あたり所定内給与額は、それぞれ該当する一般労働者の所定内給与額と所定内実労働時間数から次式により試算した。
「一般労働者の一時間あたり所定内給与額＝所定内給与額÷所定内実労働時間数」
パートタイム労働者の一時間あたり所定内給与額については、統計表上の数字を用いた。

一般労働者とパートタイム労働者の賃金格差
 (職業構成調整前後、一般=100)(女性、所定内給与)



(備考)

- 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(平成7年、12年)(パートについては特別集計データ)により、短時間・在宅労働課で推計した。
- 労働者数が少ない等の職種を除いた職種(平成7年については82職種、平成12年については86職種)を対象としている。
- 調整後の数値は、一般の賃金とパートの職種別労働者構成を一般の職種別労働者構成に置き換え調整したパートの賃金と比較したものである。

収入調整の影響

| | 労働時間数 | 時間賃金額 | 賞与 |
|------|-------|-------|------|
| 平成2年 | ▲23% | ▲4% | △51% |
| 平成7年 | △30% | △9% | △48% |

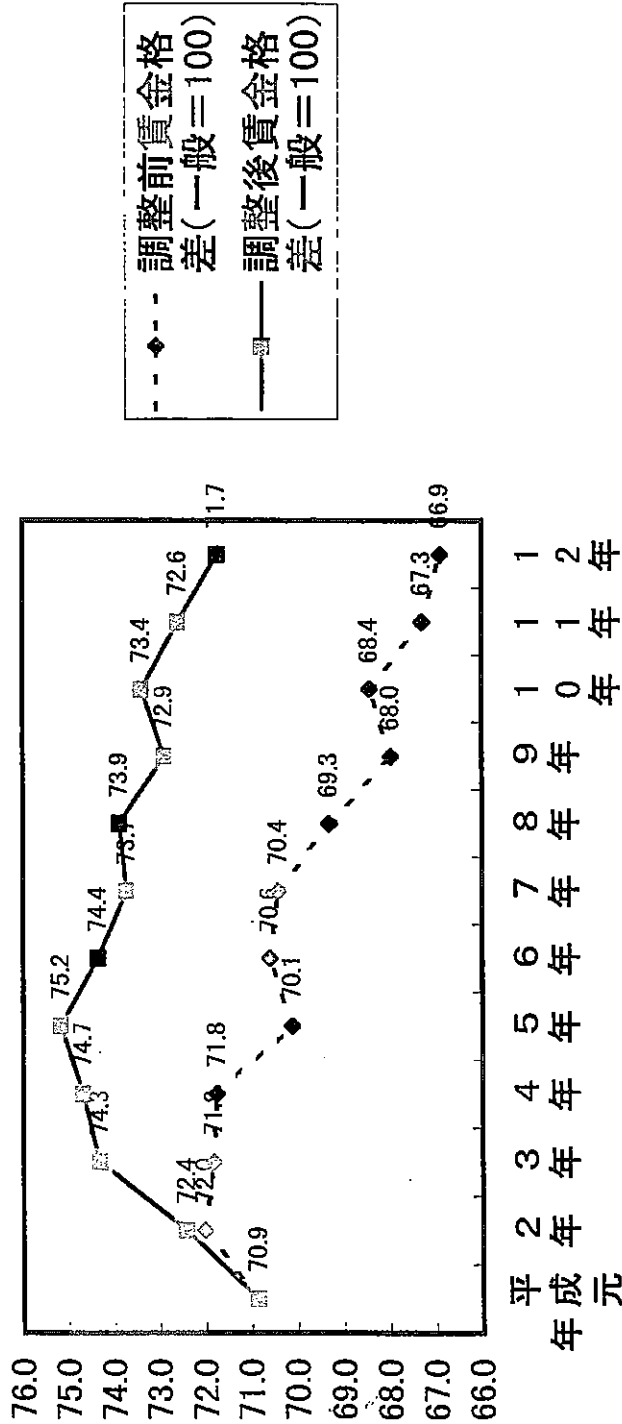
(資料出所)労働省「パートタイム労働者総合実態調査」個票データによる推計結果
 神谷隆之「女性労働の多様化と課題」ファイナンシャル・レビュー1997年12月号より転載

(注)上記推計結果より、収入調整の影響がなかった場合の賃金格差を推計すると、

$$\text{平成2年 } 72.0 \times 1.04 = 74.9$$

$$\text{平成7年 } 70.4 \times 1.09 = 76.7$$

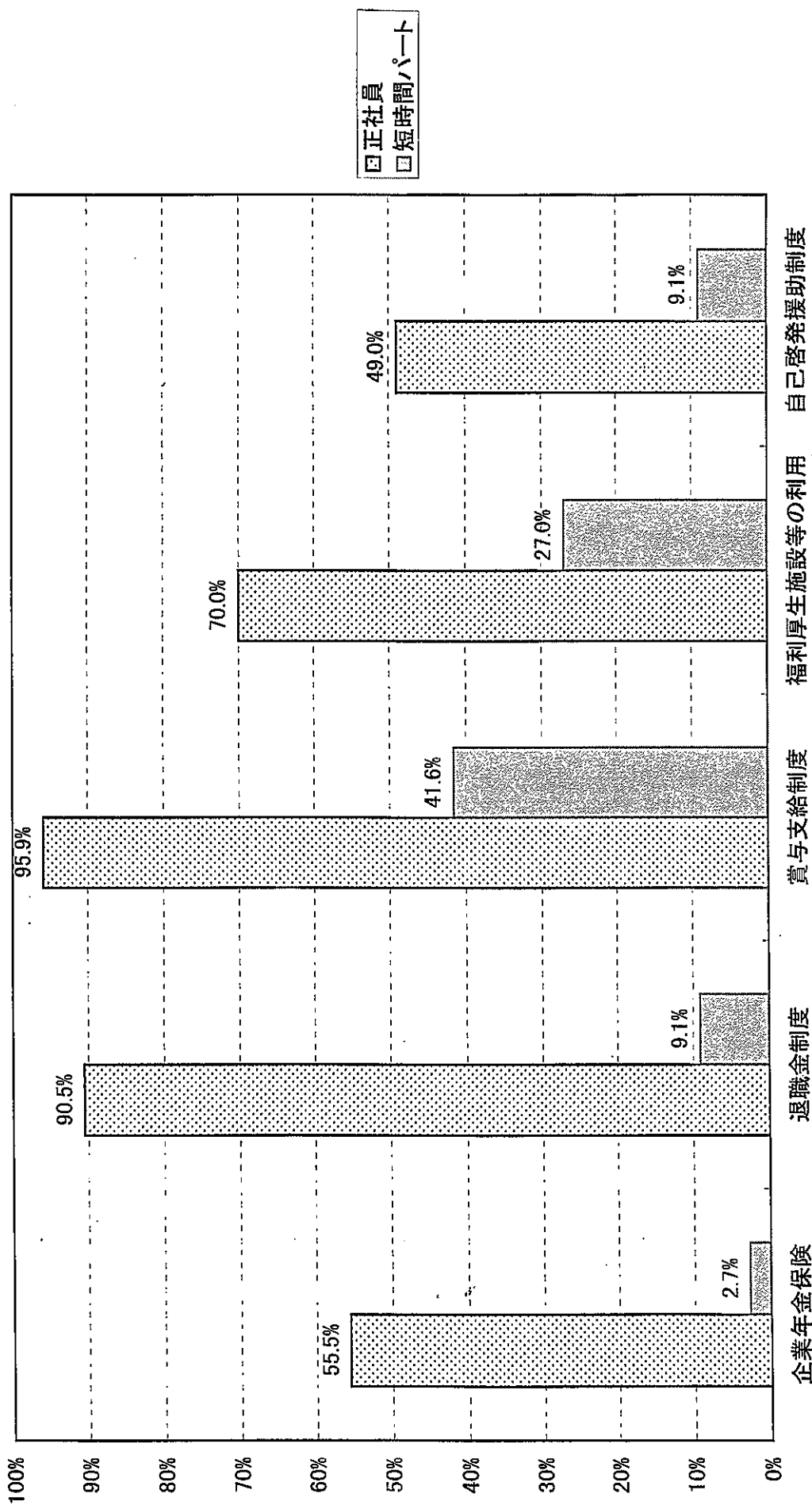
一般労働者とパートタイム労働者の賃金格差(女子) (労働時間調整前後)



(備考)

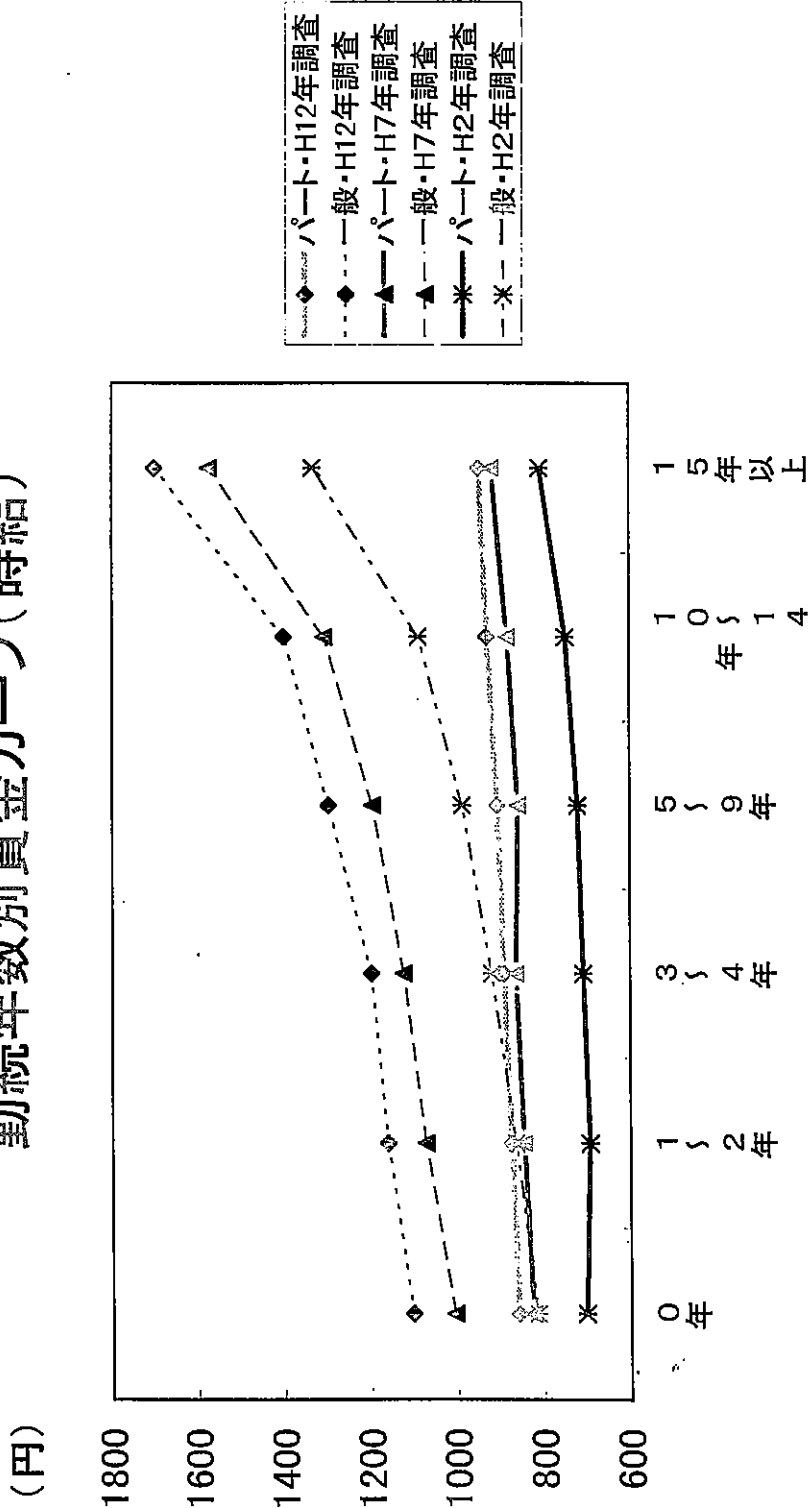
1. 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」により算出した。
2. 「労働時間調整後」は、一般労働者の所定内労働時間を平成元年で固定した場合の賃金格差データ。

各種制度の適用状況別労働者割合



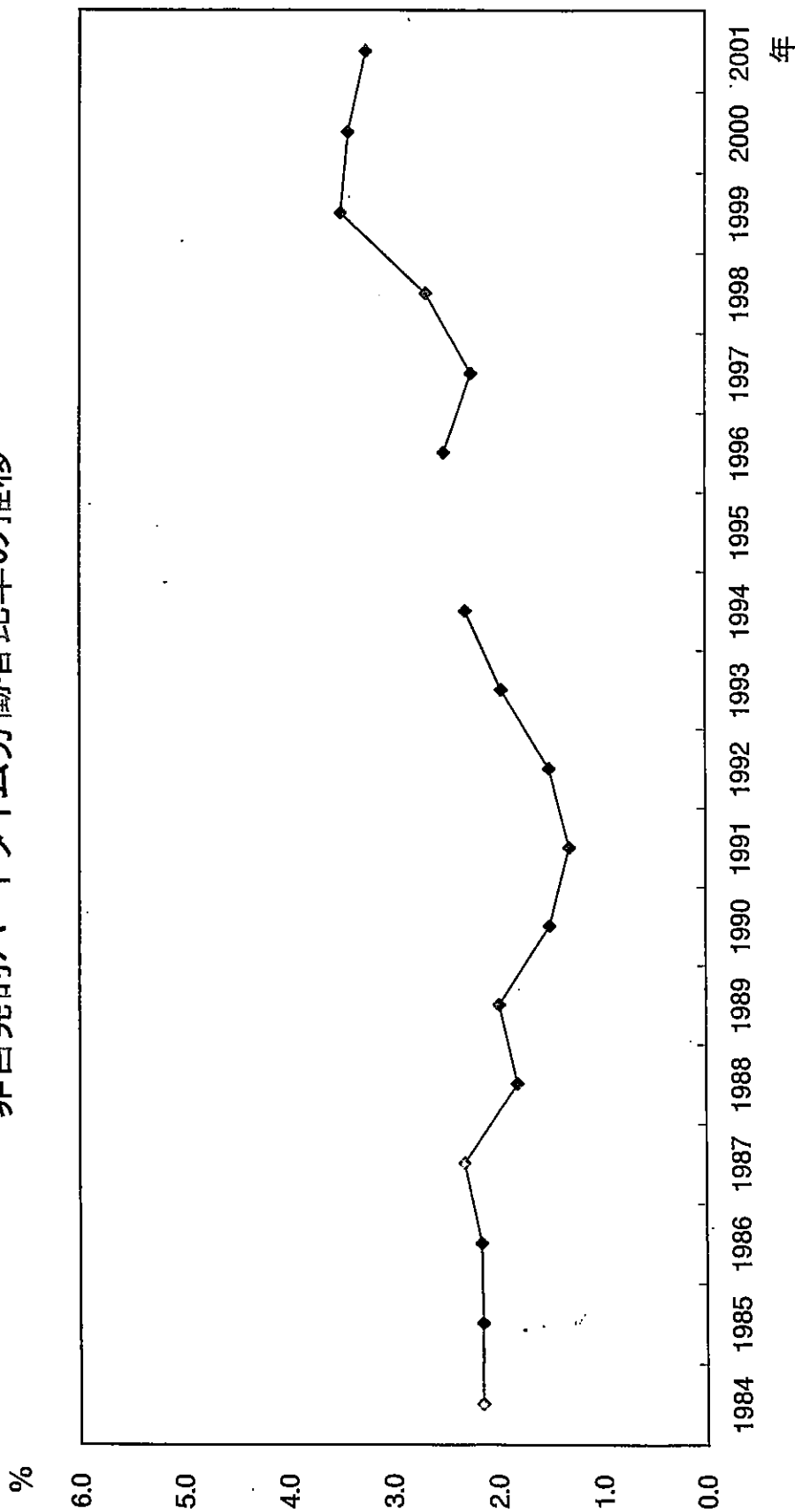
資料出所：厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」(平成11年)

勤続年数別賃金カーブ(時給)



(備考) 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(パートについては特別集計)により、短時間・在宅労働課で算出した。パートタイム労働者とは、1日の所定労働時間が一般の労働者よりも少ない又は1日の所定労働時間が一般の労働者と同じで1週の所定労働日数が一般の労働者よりも少ない労働者をいう。

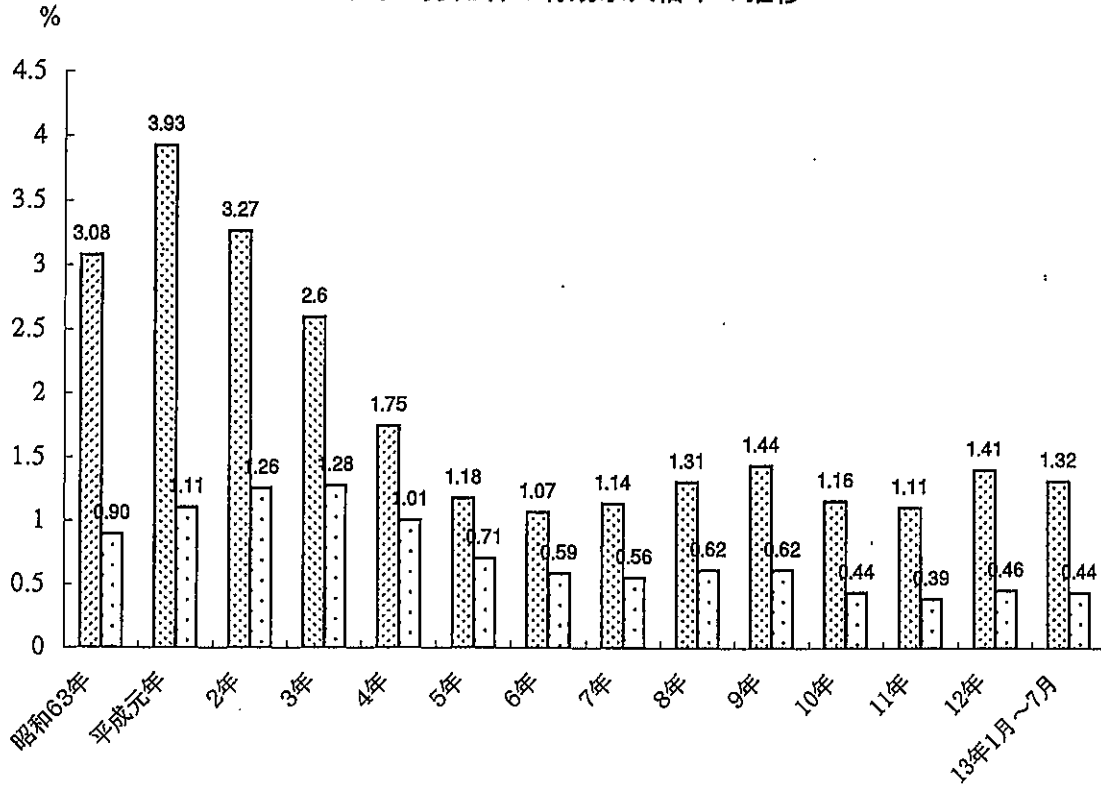
非自発的パートタイム労働者比率の推移



(備考)非自発的パートタイム労働者比率=従業者のうち35時間以上働く希望のある短時間労働者+勤め先や事業の都合(景気が悪かった)による短時間労働者の労働力人口に対する割合
 (注)95年は調査項目が異なっているため、データを外している。
 (資料出所)総務省統計局「労働力調査特別調査報告」(各年2月)

図表23

パートタイム労働者の有効求人倍率の推移

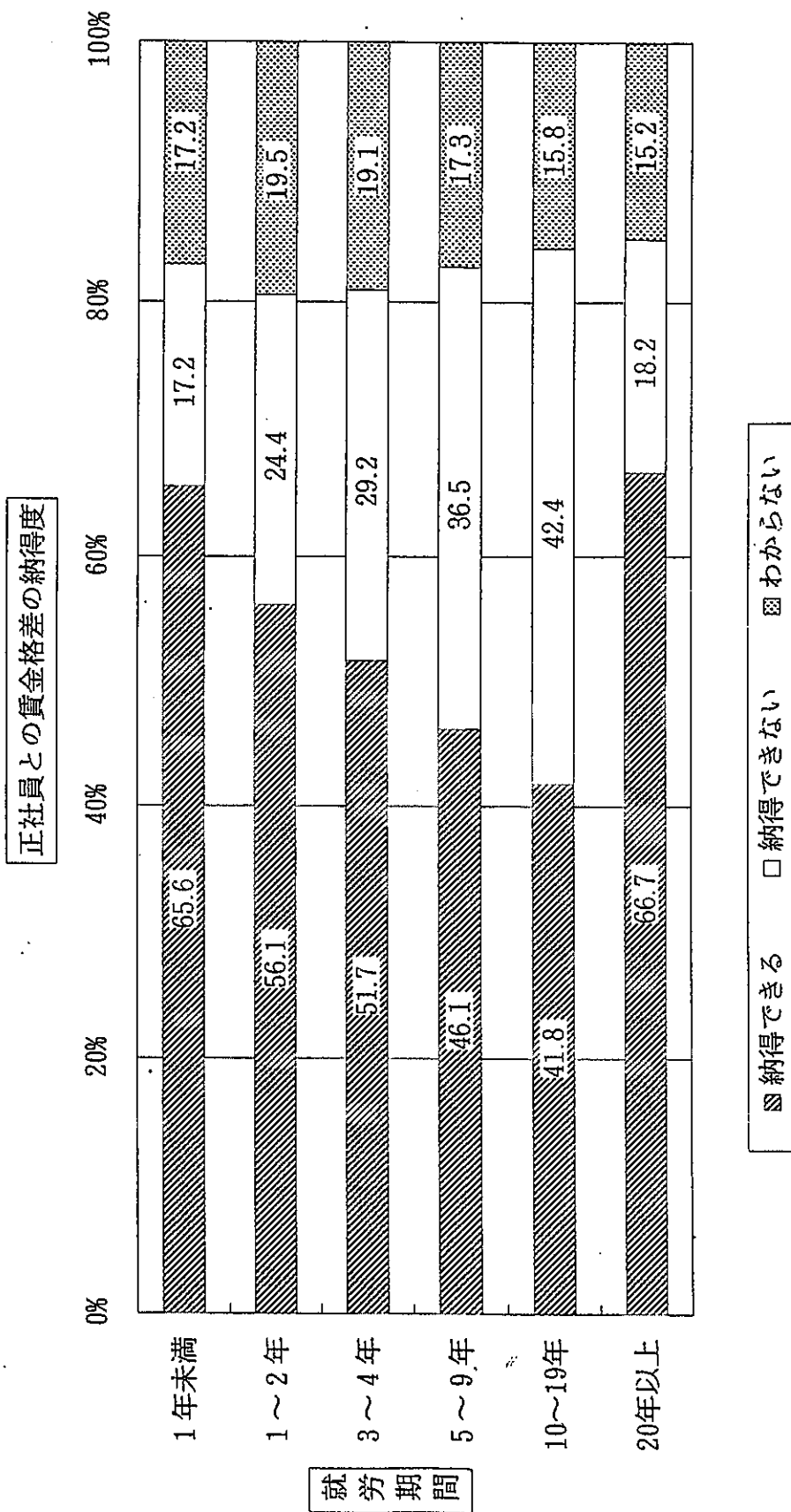


▨パートタイム労働者の有効求人倍率 □一般労働者の有効求人倍率

資料出所：厚生労働省「職業安定業務統計」

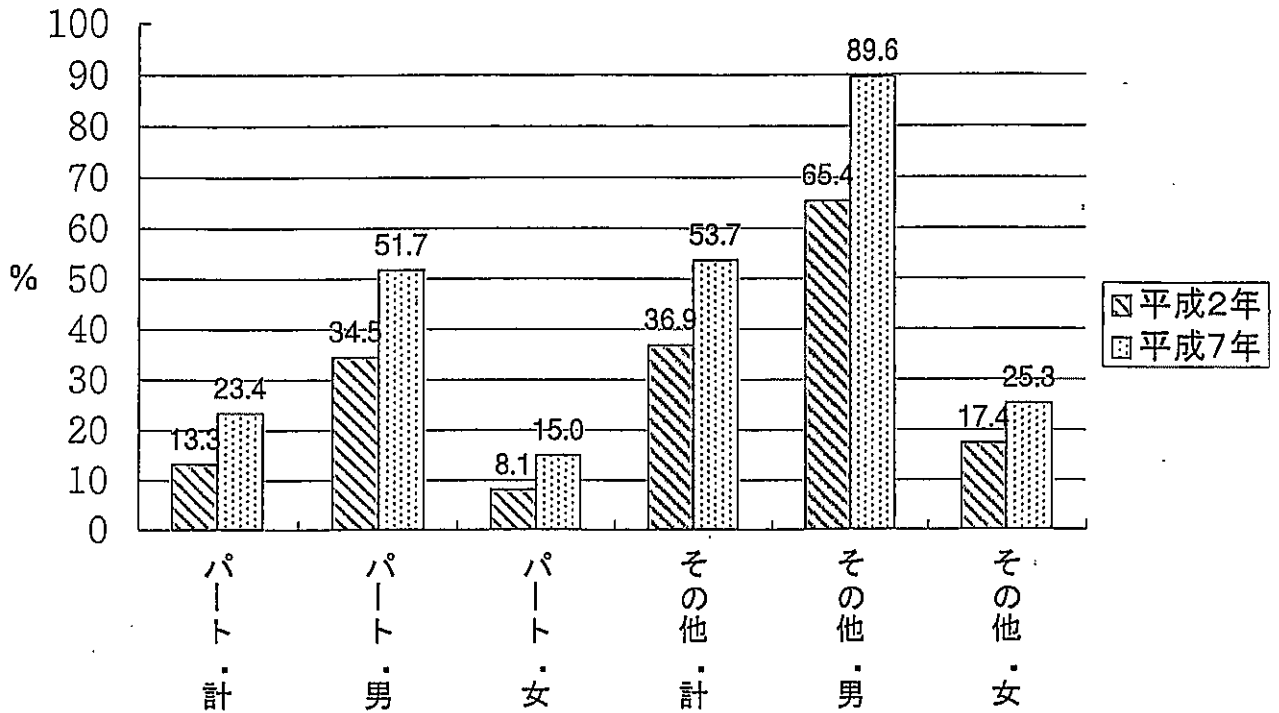
(注1)有効求人倍率における「パートタイム労働者」とは、1日、1週間又は1ヶ月の所定労働時間が当該事業場において、同種の業務に従事する通常の労働者の所定労働時間に比し相当程度短い者をいう。

現在の職場での就労期間別正社員との賃金格差への短時間労働者の納得度の納得度



資料出所：日本労働研究機構「職場における多様な労働者の活用実態に関する調査」（平成11年）

主に自分の収入で暮らしているパートの割合

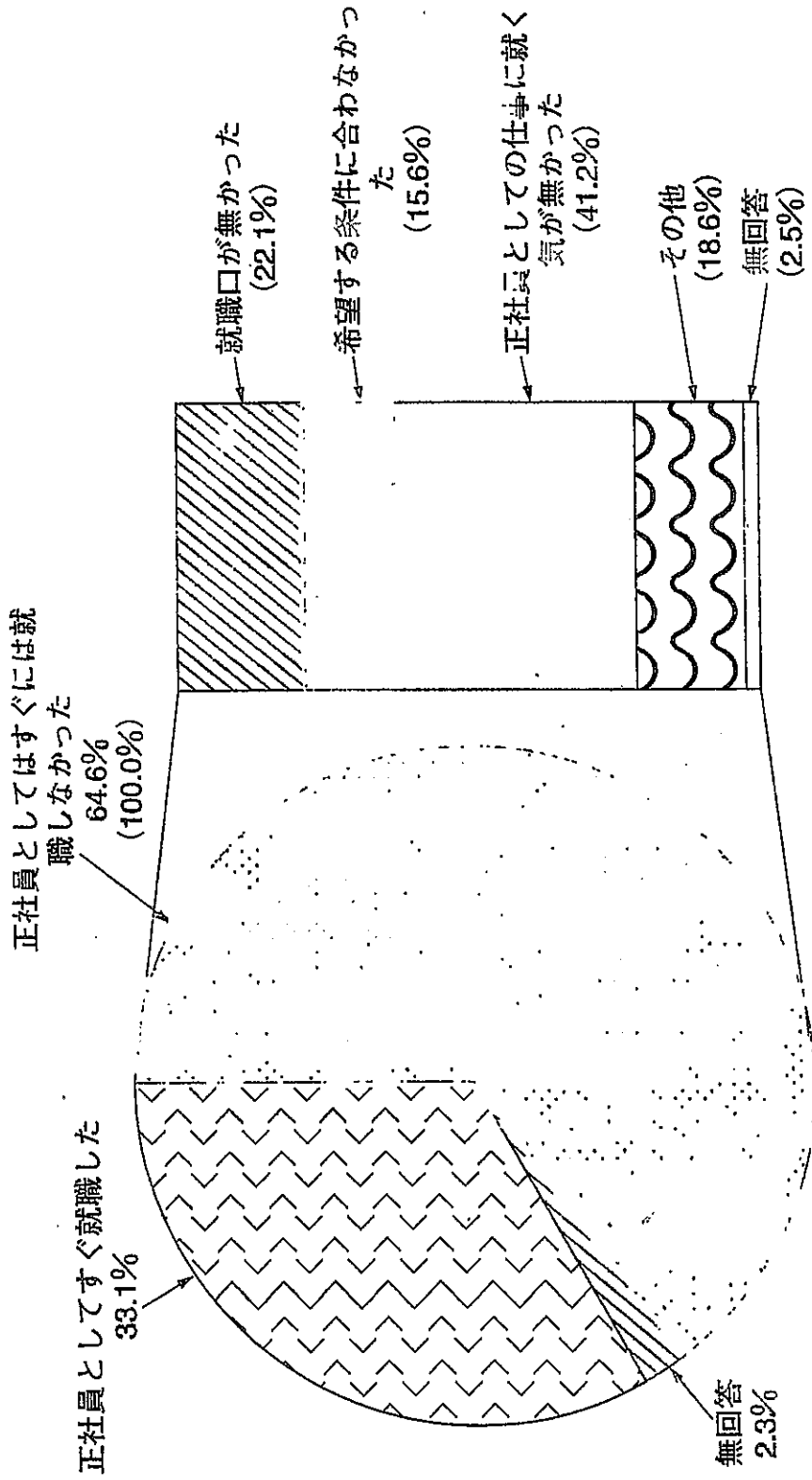


資料出所：労働省「パートタイム労働者総合実態調査」

(注1) 「パート」とは正社員以外の者で名称にかかわらず、1週間の所定労働時間が正社員よりも短い労働者をいう。「その他」とは、正社員以外の労働者で1週間の所定労働時間が正社員と同じか長い者をいう。

(注2) 平成7年の調査で、配偶者を有する者で主に自分の収入で暮らしているパートの割合は、それぞれパート計15.0%、男83.0%、女4.5%、その他計51.0%、男95.1%、女8.9%である。

フリーターの最終学校卒業又は中退時の就業状況



資料出所 (株) リクルートリサーチ「アルバイトの就労等に関する調査」(2000年)
 (注) () 内の数値は、「正社員としてはすぐには就職しなかった」(64.6%)を100%としたときの内訳である。
 (注) フリーターとは、学生でも正社員でも主婦でもなく、「アルバイト」として働いている30歳未満の者(派遣スタッフ・契約社員なども含む)